

平成27年度
入学試験問題

国 語

特待生
後期

受験番号	氏 名

中村中学校

□ 次の(1)～(10)の——線のカタカナを漢字に直して答えなさい。

(かい書ではっきりと書くこと。)

- (1) 悪人をカイシンさせる。
- (2) 二国間のリヨウド問題を解決する。
- (3) ハクアイの精神を校訓とする。
- (4) 宮沢賢治みやざわけんじの詩をロウドクする。
- (5) 相手のサクリヤクにはまり勝負に負けた。
- (6) コキヨウには緑があふれている。
- (7) ガイトウで選挙演説をする。
- (8) 方法をアヤマって失敗する。
- (9) 北海道は寒さがキビしい。
- (10) 試合に出られるようケガをナオす。

二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

1 明治維新以後、日本人はアメリカ人やイギリス人が着ている洋服を着るようになりました。最初は天皇が西洋の軍服を着ました。

次に男性の華族や役人や会社員たちが洋服を着るようになりました。

女性は、天皇家の人々や華族たちが洋服を着ました。それはなぜでしょうか？ 今、私たちは洋服の方が安くて楽だから洋服を着ます

が、当時は洋服の方が高価で、決して楽ではなかったのです。その証拠に男性たちは勤め先から帰ってくると着物に着替えてくつろ

ぎました。勤めに出ない女性たちはもっぱら着物を着ていました。天皇や政治家が率先し、服装の欧米化がおこなわれたのです。その

傾向は戦後（一九四五）ますます強まり、女性たちも洋服一辺倒になって、今日に至ります。着物はほとんどの人が着ないので、今

ではとても高価なものになってしまいました。2 それは洋服の方が美しいからでしょうか？ a 今、ラ

オスやミャンマーに行くと、多くの男性が巻きスカートです。b 都会ではジーンズをはく人も多くなっています。客観的に見て、巻きスカートの方がはるかに美しく、c 温度湿度

度の高い地域ではその方が楽に決まっています。にもかかわらず彼

らはジーンズを「かっこいい」と思うからはくのです。同じように、

明治維新以後と戦後の日本人は、客観的には着物より不格好であっても、主観的には洋服の方が「かっこいい」と思い込んで着るよう

になりました。これがグローバリゼーションの一つの側面です。つ

まり、自国と外国のあいだに、価値の高低をつけたのです。欧米文

化の価値は高く、日本文化の価値は低い、ということにしたのです。なぜかという

と、技術や政治のみならず生活まですべて欧米化すれば「世界に認められる」と考えたからです。冷静に考えれば、衣食

住まで変える必要はありません。より良いと思える技術や政治手法は導入し、そう

思えないものは導入せず、生活のしかたはそのままで良いわけです。しかし明治維新と戦後に起こったことは、都市の

設計、建築物、エネルギー政策、衣類、食べ物に至るまで欧米化する

ことでした。こうしないと世界の中で生きて行かれないからではなく、欧米社会の生活を「豊かさ」だと思ひ込み、そこに「幸せがあるはずだ」と考え、それを目標にしてしまったのです。①

3 これはまた、日本の側だけの事情ではありません。アメリカは小麦やミルクや肉や自動車や洋服生地やナイロンを売る市場を探して

④ グローバリゼーションには長所と欠点があります。大量に製

品を作ったり、広い土地で農業ができる国が、生産力の劣る国に大

量に安く商品売ることで、ものや文化の多様性が失われ、国の自

立性が無くなります。また、軍事力の弱い国が強い国のあらゆる面

を模倣し依存することで地球上の文化が多様性を失います。それら

の点が短所です。明治以降の日本はその短所の方を選んでしまった

わけです。戦後も、二〇一一年には貿易のさらなる自由化によって、

また同じ選択をしました。

⑤ もう一度、江戸時代に戻ってみましょう。羽織や着物や帯の事

例で分かってきたと思いますが、戦国時代から江戸時代の日本人は、

ポルトガル船やオランダ東インド会社船が運んできた衣類を、全面

的に受け容れたわけではありませんでした。彼らが導入したのは「生

地」でした。そこには暖かい素材、美しい色彩、面白い文様やデザ

インがあり、その面白さ美しさを採用しました。ついでにズボンも

シャツも取り入れてみましたが、シャツはあまり拡がらずズボンは

部分的に採用されました。食べ物では、金平糖やカステラやどら焼

きは江戸時代に入ると、とても一般的なお菓子になりました。

⑥ それだけではありません。江戸時代では男女とも「たばこ入れ」

というものを持つのがお洒落でしたが、その素材には、オランダ東

銀や色で文様をつけたもの)、インドネシアや中国の木綿、インド

更紗などを使いました。羅紗の生地に秋の虫を刺繍し、珊瑚で作っ

た柿の形の金具をつけ、月と竜田川をデザインした鎖で飾ったた

ばこ入れがあります。これは、素材は輸入品の羅紗ですが、日本の

秋を形にして取り合わせたのです。金唐革で作ったたばこ入れには、

ふぐの形の金具をつけ、奈良の興福寺の古瓦をかたどった根付け

をあしらいました。これは「ふぐ」と「福」のだけじゃれです。かわ

いらしいふぐの金具をつまんで開けると、その裏にはカレイと梅の

文様の金具がついています。ふぐは X の季語 (俳句で使う季語

の記号)、カレイと梅は Y の季語ですので、たばこ入れを開ける

と Y になるのです。金唐革はヨーロッパのものですが、そのデ

ザインと組み合わせは日本のものです。

⑦ 江戸時代は中国、朝鮮、琉球、インド、インドネシア、ヴェ

トナム、カンボジア、南ヨーロッパ、北ヨーロッパなど、それぞれ

異なる文化の影響を受けながらも、どこに偏るでもなく、必要な

ものをもらいながら、日本文化を作り上げていきました。これを「内

発的発展」と言います。「内発的発展」こそが、グローバリゼーシ

ョンがもたらす長所です。

⑧ 内発的発展とは、どこからも影響を受けずに閉じた空間で独自

の発展を遂げることはありません。あらゆる情報を獲得し、その

場所の気候や自然環境^{かんきやう}や歴史や職業や今後の仕事の可能性に沿いながら、人々がうまく生活していかれるように取捨選択^{しよ}して経済システムを作り上げてゆくことです。

80

9 自然環境を無視して技術だけを導入すると、とんでもないことが起こってきます。たとえば森林に恵^{めぐ}まれているのに木材を外国から輸入して森林崩壊^{ほうかい}になるとか、雪で倒れることがわかっていて高山に杉^{すぎ}を植えるとか、湿度が高いのにそれを吸収できない建築材料を使うとか、地震^{じしん}が多い国土に原子力発電所をたくさん作るなどは、実際に日本がやってきたことです。自然環境は人の力で変えられないので、それを無視すると大きな災害が起きたり、膨大な^{ぼうたい}コストがかかったりするのはです。そこから考えると、内発的発展^{ちえん}に知恵^{ちえ}を絞^{しぼ}るのは、とても重要なことなのです。

85

10 ここまで、ヨーロッパ諸国やアジア諸国の影響を受けた着物について語ってきましたが、では影響を受けなかったものはないのかというと、それもありました。「風景の着物」です。江戸時代になると、刺繍や染めの技法が何通りも出てきて、どんなことでも可能になりました。ですから江戸時代の着物は、広げるとまるで一枚の絵画のようです。大きくうねる川の流れの周囲にびっしりと萩^{はぎ}の花が咲^さく着物、全体の半分を被^{おほ}う巨大な流れと、それに沿って咲^さくかきつばたの着物、山中の流れに何羽^わもの鴛鴦^{うしじり}が浮^うかび、その上に山

95

桜が開き散り、そのあいだを鳥が舞^まっている着物、夜の山に梅が匂^{にお}いその木のもとに春の七草が見える着物、裾^{すそ}に松原が広がり、その向こうに帆船^{はんせん}が浮^うかび、その上空を着物いっぱいにな格好で鶴^{つる}が飛ぶ着物、竹林の中に迷い込んだような着物、夜の京都嵐山^{あらしやま}から桂川^{かつがわ}と渡月橋^{とげつきやう}を見渡^{わた}す着物、屋内の御簾^{みす}を少し上げてそこから覗^{のぞ}いた庭の草花と、そこに蝶^{ちょう}の遊^{あそ}ぶ風景の着物、吉原^{よしわら}の通りと茶屋と歩く人々を描いた着物、表は地味な無地で、裏に見事な青海波^{あらいは}とそこに浮かぶ水鳥を刺繍した着物など、^④枚挙のいとまがありません。このような風景画でもある衣類は、日本の江戸時代に出現したのです。

105

(田中優子 『グローバリゼーションの中の江戸』)

※華族……もと身分の高かった人の一族。

※グローバリゼーション……ものが地球規模に広がること。

※模倣……まねをすること。

※羅紗、更紗……ともに布地の一種。

※根付け……小さな細工をほどこした装飾品。ひもでさいふやたば

こ入れなどに付けて使用した。

※コスト……費用。

※御簾……宮殿などで用いるすだれ。

100

※青海波……波をかたどった模様。

問一 〜〜〜線A「至(り)」、B「都合」の読みをひらがなで答えなさい。

問二 にあてはまる語として適当なものをそ

れぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア、しかし イ、すると

ウ、また エ、たとえば

問三 〓線x「ない」とありますが、同じ用法のものを次から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア、人との別れはせつない。

イ、自分にはちゃんとした意見がない。

ウ、どんな困難にも絶対に負けない。

エ、ここには鉛筆が一本しかない。

問四 段落 、 をよく読んで、天皇や華族などの社会的地位の

高い人々が洋服を着るようになった目的を、二十五字以内で答えなさい。

問五 〓線①とありますが、それ以外にどのような事情が考え

られますか。それを説明した次の文の

に、適当な語を本文中からぬき出して答えなさい。ただし、

、 には国名が入ります。

にとって が、よい (漢字二字)

だったこと。

問六 ——— 線②に関して答えなさい。

(1) グローバリゼーションの「長所」を本文中より五字でぬき出しなさい。

(2) グローバリゼーションの「長所」の例として、適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、西洋から入ってきたパンに、日本人の好みに合う小豆のあんを入れて、「あんパン」という独自の日本文化にした。

イ、かつて日本では「下駄」や「ぞうり」をはいていたが、西洋からくつが入ってきて、今では日常生活でくつをはくようになった。

ウ、日本文化を代表する「すし」が、世界中で流行し、どこへ行っても食べることができるようになった。

エ、海外で日本のアニメやマンガに人気が出たことにより、それらを求めて日本を訪れる外国人観光客が増えた。

(3) グローバリゼーションの「欠点」を説明した次の文の

1、2 に適当な語を本文中からぬき出して答えなさい。

力の強い国の文化やもの、あるいは考え方が広まり、力の弱い国がそれをまねることで、ものや文化の 1 (漢字三字) がなくなり、一つの国としての 2 (漢字三字) がうばわれるということ。

問七 ——— 線③とありますが、ここから日本文化はどのような形で作られていったと筆者は述べていますか。適当なものを次

から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、世界各国の文化を少しずつ取り入れ、他国のまねをくり返し行うことで作られていった。

イ、ポルトガルやオランダの文化を中心に、日本人好みのものを受け入れることで作られていった。

ウ、他国の影響を受けることに抵抗を感じつつ、仕方なく受け入れていくことで作られていった。

エ、色々な国々の影響を受けながらも、バランスよく必要なものを取り入れることで作られていった。

問八 X、Y にあてはまる季節をそれぞれ漢字一字で答えなさい。

い。

問十一 本文の内容にあてはまるものにはA、あてはまらないもの

にはBを解答らんらんにそれぞれ書き入れなさい。

問九 線ヨ「取捨」とありますが、同じ構成の熟語を次から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア、非常 イ、往来 ウ、登山 エ、教育

ア、洋服は明治維新时期に一般人に広まり、すると間もなく皇族や政治家も着るようになった。

イ、現代の日本は、生産力の高い国におされ、自国の独自性を失う危機にさらされている。

問十 線④とありますが、「枚挙にいとまがない」の意味と

して適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、多くの長所があり、欠点が見当らないこと。

イ、あげたらきりがなく、数えきれないこと。

ウ、休む間もなく進歩を続けていること。

エ、たくさんの共通点を見つけていることができること。

ウ、江戸時代に流行した「たばこ入れ」は、色々な国の素材が使われたが、そのデザインは日本に特有のものであった。

エ、着物は多くの国々の影響を受け、日本の伝統的な刺繡はなくなってしまうが、美しさに磨みがきがかかった。

〔三〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。(設問の都合上、本

文を改変、省略したところがあります。)

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

小学二年生の冬のことだった。

ぼくらのクラスは、二つのグループに分かれて大論争が起った。

議題は、「サンタクロースは本当にいるのかどうか」。今、小学四年生のぼくは、サンタの正体を知っているし、信じてない。だけど二年前、まだサンタを信じていたぼくにとっては、その存在を疑うなんて考え方が世の中にあること自体が、ありえないことだった。

〈中略〉

自分の意見の方が正しいのに、何であいつらはわかってくれないんだろう。お互い^{たが}がお互いをそう思いながら、ぼくらのやり取りは泥沼^{どろねま}化した。そして、現実^{じつじ}に反する意見であるぼくらの側は、仕方ないけど、やっぱり劣勢^{りゃくせい}だった。

先生に聞いてみようか。相談しながら、ぼくは段々と不安になり出していた。議論に負けることがっていうよりは、サンタクロースがないかもしれないってことが。今まで信じてたものに裏切られ

る。それが怖^{こわ}かった。

大論争が一週間目に突入^{とっしゅう}した頃^{ころ}、事態が何だかおかしくなりだした。それまでぼく側、「サンタはいる」派だった子たちの大半が、「いない」派に寝返^{ねかえ}ったんだ。ぼくを裏切った。「いない」派のリーダーがそれぞれに話しかけて説得したせいで、みんな段々とサンタを信じる気持ちが薄^{うす}れていったらしい。

だけどぼくは意地^{いぢ}になってたせいで①そういう声の一切^{いっさい}を耳がシャットアウトして受け付けなかった。気がつく、「いる」派は一人きり。みんながぼくを取り囲^{にこ}んで睨^{にら}んでる状態だった。帰りの会の終わっした後、放課後の教室で、ぼくはみんなから一斉^{いっせい}に説得を受けた。

「いないっつってんのに、何で信じねえんだよ。俺^{おれ}のお父^{とう}さんもお母^{かあ}さんもそう言^いってたし、先生^{せんせい}だって昨日^{きのう}聞いたらサンタなんかいねえっつってたよ」

「うん、うちのお母^{かあ}さんも言^いってた」

ぼくは黙^{だま}ったまま、それを告げるみんなの顔を見つめていた。説得^{せとく}の言葉^{ことば}が終わると、今思い出しても具合が悪くなるような、個人攻撃^{こうげき}の悪口^{あくぐち}が次から次へと飛び出す。この間^ま図工^{ずこう}の時間^{じかん}に描^かいたぼくの絵^えがクラス一^{ひと}下手^{へた}だった話^わなんて、今はどうだっていいはずなのに、そのことでもからかわれた。

トモだって、イトウくんだって、いつもならぼくと同じグループ

15

10

5

1

35

30

25

で仲がいいはずなのに、何だか空気がおかしくなり始めていた。今の親友のタカシも、この時はまだ同じクラスじゃなかったから、ぼくを庇^{かば}ってくれる人は本当に誰もいなかった。

「じゃなかったら、お前のお母さんが嘘^{うそ}つきってことじゃん」

トモがそんなことを言い出す。

「お前んち、嘘^{うそ}つきの家なんだよ。お母さんが嘘^{うそ}ついてるか、それかお母さんも信じてるんだとしたら、お前のお母さん、大人のくせにすごいバカなんじゃねえの？ ああ、そっか、それか……」

急に何かに思い当たったように、トモが隣^{となり}の女子に何か小声で囁^{ささや}いた。言われたその子も「やだあ」って困ったように笑う。そして言った。「ひどいよねえ」って【a】を曇^{くも}らせながら。

「トモくんが、それか、お父さんがいない家はそうなのかもしれないねって。サンタの代わりにできないから」

それを聞いた途端^{とたん}、^②ぼくの中で覚悟^{かくご}ができた。長く瞬^{まばた}きするふりをして目を閉じて、【b】を食^くい縛^{しば}る。それからぱっと思^{おも}い切り目を開ける。スイッチを切り替^かえるような具合に。ぼくは、そして、

「ああ、そっだよ。ごめんごめん」

とヘラヘラ笑った。

「ごめん。そっだよ。サンタクロスなんて、いないんだよ。ごめん、ごめん。本当はぼくも、お母さんからそう聞いたんだ。だ

55

けど、なんかちょっと悔^くしかったから」

^③みんなが驚^{おどろ}いたように笑うのをやめる。ぼくはそれでも相変わらずヘラヘラしながら、続けた。

「そっだよ。ごめん、いないに決^きまってるよ。サンタなんか」

何度も「ごめん」を連発する。自分が誰に對して、何について謝^{あやま}ってるのかがあやふやになって、よくわからなかった。だけど続ける。謝り、続ける。

「ごめん、そっだよ。いないって知^しってるんだ、本当は」

俯^{うつむ}いてランドセルを引^ひっかけ、呆^{あっけ}気にとられてるみんなを置いて教室を出て行く。

心臓がすごく痛かった。ヘラヘラ笑ってる自分のほっぺたが引きつってうまく動かなかった。顔がちやんと笑^{えが}顔^おになっただけなのに、細^{ゆが}く歪^{ゆが}めた目の下が熱い。涙^{なみだ}が出^でそうになっただけなのに気が付いて、もっと笑顔を浮^うかべようとしてみる。だけど努力すればするほど、心臓がますます痛むばかりだった。

70

教室と同じ階にある図書室に、逃^にげるように入る。中では、上級生が何人か席^{すわ}に座^{すわ}っていた。楽しそうに女の子たちがおしゃべりしている。ぼくは、図書室の中でも一番人がいない場所、辞典コーナーの隅^{すみ}っこに急^いいだ。

75

A ぼくを見つめてたクラスの子たちが追いかけてきたら耐^たえられない。誰にも見^みつからないことを願^{ねが}いな

がら、床に体育座りをする。

悔しくて悔しくて、本当に悔しくて、【c】が張り裂けそうだった。みんな笑ってた。みんな、ぼくのことを笑ってた。お母さんのことを、嘘つきって言った。バカって言った。

サンタさんがいないって、そう言った。ぼくにそう言わせた。ぼくが自分の口で言ったんだ。「サンタなんかいないに決まってる」って。

ぼくの。

ほったを押さえると、ものすごく熱くなっていた。触るぼくの手ひらも、とても熱かった。④自分のことが、許せなかった。

ぼくの家には、お父さんがいない。だから、ひよっとしたら、お父さんの代わりにサンタさんが来てるのかもしれない。

そう考えると、悔しくて、悲しくて、それから無性に寂しくなりました。ぼくのお父さんは、サンタの正体を知っているだろうか。もしぼくの家にいたら、教えてくれただろうか。

身体を屈め、【b】を食い縛っていたその時だった。

「サンタさんはいるよ」

声が、ふいに僕に囁いた。

驚いて顔を上げる。すっかり熱くなった両手を顔からはずしてあわてて立ち上がる。いつの間に来ていたんだらう。ぼくの隣の本棚にふみちゃんがいた。ふみちゃんは、ふざけた様子のない真剣な眼

差しでぼくを **B** 見つめていた。

「先生やお母さんや、トモくんたちが何か言っても、絶対にいるよ。私、本で読んだ」

「ふみちゃん」

その声を聞きながら、ぼくは思い出していた。

去年のクリスマス直後、ぼくとふみちゃんはサンタにもらったブレゼントを見せ合った。ぼくはダイナソルジャーの合体ロボで、ふみちゃんはお姫さまの変身鏡セットだった。

その時、話を面白くしたかったぼくは、ふみちゃんに、サンタが来るまで起きていた、と嘘を言った。ちよっとだけど、話もしたよ。ふみちゃんは「そうなんだあ、すごいね」って頷いていた。

サンタが本当はいるってことになる、ぼくはその嘘もバレる。思うと、改めて気持ちが **C** 落ち着かなかった。

ふみちゃん、あのことを覚えているだろうか。水泳の大会でプールに飛び込む、その直前みたいな嫌な気分だった。おなか痛くなってくる。

「何ていう本？」

「『サンタクロスってどこからくるの？』っていう本。いるって書いてあった。ただ忙しいから、全員の家には来れないんだって」
大丈夫だよ。ぼくに向けて、力強く言う。ふみちゃんはぼくの

周りでは誰よりも物知りで頭がいい。大丈夫だよ、間違っていないよ。信じていいんだよ。

「本当？」

尋ねるぼくは半べそだった。彼女が頷く。

「絶対、本当」

ふみちゃんが言うんだったら、本当なんだろうか。間違ってるのはあの子たちなんだろうか。ふいをつかれてどんな顔をすればいいかわからないぼくの前で、ふみちゃんがぼくの頭を柔らかく、軽く叩いた。そして言った。

⑤「偉いっ!!」

図書室には不釣り合いな大きな声だった。ぼくは驚き、黙ったままふみちゃんを見上げる。彼女が背負っていたランドセルを下ろし、その横にしていたものをはずす。一年生の時にうさぎのミッフィーちゃんのキーホルダーがついていた位置に、二年生になってから別のキーホルダーがつけられるようになっていた。

それは透明な石がそれぞれについたキラキラに輝く三本のスプーンで、大、中、小、大きさの違うそれらが持ち手の端でリングでとめてある。大きいには、上の方に赤いうさぎの形の石。中くらいには、真ん中に青いうさぎ。小さいには、下の方に白いうさぎの石。

135

スプーンはそれぞれ、石がついてない場所には、そっくり同じう

さぎ形の穴があげられていて、スプーンを三つ重ねると、それがぴたりと一つに重なるようになっていて。変わったデザインで、ランドセルを背負ったふみちゃんが歩いた時、チャラチャラと楽器みたいに鳴るんだ。

「偉いっ！」

またぼくの頭を叩いて、そうほめてくれた。

「どうして？」

わけがわからないまま尋ねると、ふみちゃんは大きく頷いて教えてくれる。

「あそこで負けを認めなかったら、もつとずっとひどいことになってたよ。みんな怒ってたし、ムキになってたし。……本当は正しいのに、みんなのために負けてあげたじゃん。なかなかできないよ。

偉いよ」

本当は正しいのに。

もう一度繰り返す。それからにっこり笑ってぼくを見つめ、スプーンを差し出す。

「あまりに偉いから、これを一つやろう」

スプーンを束ねる端にこのリングに指を突っ込んでチャラチャラ振ってみせる。魔法使いが特別な鍵を扱うみたいに。

155

150

145

140

「お母さんたちと横浜よこはまに行った時、デパートで買ってもらったの。いっぱいついてて、きれいでしょ。うさぎがすごく可愛かわいいから買ったんだ。おもちゃじゃないんだからよしなさいって言われたんだけど、これがよかったの。『メジャー Spoon』って言って、料理するのに使うんだって。ふみの宝物なんだよ」

160

その時のぼくがふみちゃんを見つめて目を細めたのは、半分は Spoon についての石の眩まぶしさのせいで、もう半分は涙が出てきそうだったからだ。

I
ぼくは泣きそうIで、本当に胸がちぎれそうIで、ふみちゃんも

165

いてくれなかったら、多分、その気分のまま家に帰っていたと思う。それから数日は、学校に来たくなかったと思う。

だけど、ふみちゃんがいたせいで、完全にふいをつかれ、宝物までわけてもらって、そのせいで今度は泣きそうIIになる。そんなことされなければ我慢がまんできていたのに、ぼくの目から涙が一度にポロポロとこぼれた。

170

そんなぼくを見て、ふみちゃんが笑う。あははって明るく。

「なんで泣くの。正しいことしてるのに」

「正しいの？」

「正しいよ」

ふみちゃんがにこにこしながら言う。

175

「サンタさんがいることも、信じてることも正しいし、なのに負けてあげたことも全部正しい。偉い」

えへへ、照れ笑いのような顔つきで、ふみちゃんがぼくを誘さそう。

「今日きょうもうさぎのとこ寄って帰るけど、一緒いっしょに行かない？ 早く四年生になりたいなあ。そしたらうさぎ当番ができるね」

180

Spoon に、キラキラ輝く三匹びきのうさぎ。

「ねえ」

ふみちゃんが尋ねる。

「何色の、どの大きさのがいい？ どれか一本あげる」

185

それから一年くらい経たって、ぼくは何のきっかけだったか、サンタクロスに纏まとわる真実を知った。そしてそれを知ったのと同じ時期、ぼくはやはり何のきっかけだったか忘れたけど、ふみちゃんのお母さんから、もう一つ別の真実を聞いた。

190

ふみちゃんは幼稚園ようちの頃、泣きながらおばさんに『サンタさんってお母さんなの？』と聞いたことがあったらしい。

『サンタクロスってどこからくるの？』っていう本を読んで、そこで秘密を知ってしまったのだと言う。小学校に上がる前には、だからもう、ふみちゃんは誰より早く真実を知っていた。

195

⑥
かっこいいなあ。

それを知ったぼくは、感嘆のため息を吐いた。みんながあの大論争をしている中で、ただ一人最初から全部を知っていたのだ。普段はどちらかといえば言いたがりな方で、変わったことを言っただけにほめてもらいたがるのに、そんな大事な秘密を黙ってる。誇らしげにぼくらにそれをぶちまけたトモより何年も前から知っていたのに、ずっと黙ってたんだ。そしてその上でぼくを庇ってくれた。

(辻村深月『ぼくのメジャースプーン』)

200

問二 【a】と【c】には身体の一部を表す漢字が入ります。適当

なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。なお、二カ所ある【b】には同じものが入ります。

ア、口 イ、歯 ウ、眉 エ、顔 オ、胸 カ、腹

問三 —— 線②の「覚悟」とはどのような「覚悟」ですか。三十

字以内で答えなさい。

問四 —— 線③とありますが、それはなぜだと考えられますか。

五十字以内で説明しなさい。

問一 —— 線①「そういう声」とはどのような声ですか。次から

適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、「サンタはいる」派の子たちが説得する声。

イ、「サンタはいない」派の子たちが説得する声。

ウ、「サンタはいる」派と「いない」派の子たちが争う声。

エ、クラスのみんなが一斉に「サンタはいる」と説得する声。

問五

A

と

C

に入る語を次からそれぞれ選び、記号

で答えなさい。

ア、じつと イ、ぼかんと

ウ、まざまざと エ、ざわざわと

問六 ——— 線④とありますが、その理由として適当なものを次か

ら一つ選び、記号で答えなさい。

ア、本当にサンタが存在しないことを知り、今までの幼い自分
に対して怒りを覚えたから。

イ、あこがれていたサンタのことで友だちと言い争いになり、
友だちを説得しきれなかったから。

ウ、平気なふりをして笑顔でいることができず、教室から逃げ
出した自分が情けなかったから。

エ、今まで自分が信じていたことを否定するようなことを、自
分から口にしてしまったから。

問七 ——— 線⑤とありますが、ここにこめられたふみちゃんの思

いはどのようなものだと考えられますか。それを説明した次
の文の（ 1 ）、（ 2 ）に入る内容を後からそれぞれ選
び、記号で答えなさい。

ぼくが（ 1 ） 1 ）ことをわかった上
で、みんなのために負けてあげて偉いとたたえて（ 2 ）
という思い。

（ 1 ）

ア、自分の方が正しかったと知り、自分をせめたみんなに腹を
立てている

イ、自分が正しいと知りながらも、みんなに合わせて主張をゆ
ずってあげた

ウ、自分が信じていたことをおし通すことができずに、みんな
に負けてしまった

エ、ふみちゃんやみんなに対して言った嘘を思い出し、バレル
ことをおそれている

（ 2 ）

ア、はげましたい イ、いさめたい
ウ、けなしたい エ、なだめたい

問八 〓 線Ⅰ、Ⅱに「泣きそう」とありますが、Ⅰでこらえて

いた涙が、Ⅱでのある感情に後押しされて、こぼれてしま
います。その感情とはどのようなものですか。次から選
び、記号で答えなさい。

ア、人の優しさに触れたうれしさ

イ、人からあわれみを受けたみじめさ

ウ、人の気持ちが悪くなったさびしさ

エ、人に理解してもらえなかったくやし

問九 〓 線⑥とありますが、どのようなことに対して「ぼく」

は「感嘆のため息を吐いた」のですか。七十字以内で答えな
さい。